

上野へのツアー

旅行会社と提携し、上野に大型バスを呼び込む町主催のツアーが好評です。福岡・北九州の両政令市からの来客をいかにして増やすかが、今後の課題。



産地間交流

国指定の伝統的工芸品7産地(博多人形、博多織、久留米餅、小石原焼、上野焼、八女福島仏壇、八女提灯)による青年部交流が生む、新合作に期待大。



グリーンツーリズム

文化と歴史に彩られた上野で、作陶などの体験活動を楽しむグリーンツーリズム。上野を満喫できる魅力ある事業として、高い可能性を秘めています。



日韓交流

上野焼開祖・尊楷ゆかりの地、韓国。これまでの若手作家交流展や小学生の相互訪問で培った絆を生かした、新しい方向性の事業展開が期待されます。



首都圏での展開

中央での成功には、まず知名度アップが絶対条件です。昨年から東京で行っている福智町物産展を中心に、上野焼の積極的なPRが求められます。



季節もののアイデア作品として創作した「上野焼風鈴」と「上野焼ランプシェード」



これまでになかった上野焼の風鈴やランプシェードなど、斬新なアイデアを打ち出してきた上野焼協同組合。なかでも今準備が進められている「上野ジャパン」の成否は、今後の産地の方向性をも左右する重要なカギを握っています。青柳理事長は「外国人だからこそ、作品に作家の精神が注がれていなければ受け入れてもらえない。海外での第一印象を覆すのは困難。細心かつ大胆に取り組む必要がある」と欧州展開の第一歩の重要性を唱えます。ブランド力を秘めた格調高い販売路線は維持しつつ、さらに創意工夫を重ねていく上野焼。次の展開に目が離せません。

細心かつ大胆にチャレンジ

バレンタインのチョコにちなんだ上野焼の「マイちょこ」をさらに国指定の伝統的工芸品である博多織や久留米餅で包むセットにして魅力が倍増。発売後、たちまち電話注文を中心に3日間で計80セットが完売しました。青柳理事長は「今は端境期で変革の時期、だからこそ前例にとられない思い切ったアイデアや冒険心が必要」と今後のコラボレーションやジャパンブランド展開にも意欲をみせます。

上野焼史上初の合作による
伝統的工芸品の相乗効果が、
未知の魅力と可能性を生む。



上野焼

上野焼と博多織をセットにしたジヤパンブランド構想の原点となった伝統工芸の合作「マイちょこ」。好評の上野焼コラボレーションが生み出す次なる展開への期待が高まる。

誕生 生日にケーキ、お祝いに花束……。ギフトの機会が多いのですが「やきものを贈る日」は存在しません。しかし、やきものは他に勝るとも劣らない格好の贈り物であり特産品。その特性に目を付けたのが上野焼協同組合の青柳一夫理事長です。

伝統産地
県内の
融合。

上野 AGANO Collaboration 産地連携 創る 伝統の縦糸と横糸の交差

野 コラボレーション



【仕掛け人】青柳 一夫・上野焼協同組合理事長
当初「マイはし」があるように「マイちょこ」も粋だと発想。「袋は鮮やかな博多織がいい、あたたかみのある久留米餅もある」。普段からの産地連携が選択肢となり、伝統的工芸品のコラボを生んだ」と発案をふり返ります。

制作連携 久留米餅

今から約2百年前、井上伝という女性によって考案された久留米餅。藍染の綿糸を丹念に織り上げた素朴な味わいが上野焼のぬくもりを引き立たせます。



大切なあの人のほころぶ顔が目に浮かぶ...
バレンタイン♡マイちょこ

発売後わずか3日で完売！
女性に大人気



= 博多織 + 久留米餅 + 上野焼

「かわいいし、珍しい」と女性の絶大な評価を集めたバレンタイン限定の「マイちょこ」。ハート形のものもあり、お好みの「ちょこ」と博多織・久留米餅の巾着を選んで組み合わせるセットが人気でした。「甘い物が苦手な人にも喜ばれた」との反響もあり、来年も発売予定です。

博多織 制作連携

鎌倉時代からの歴史を持つ伝統技法が、独特の張りを生み出していく博多織。その織細さと華やかさが上野焼の格調をさらに高めます。



小石原焼 イベント連携

これまで、陶器まつりなどのイベント時に合同企画を進めてきた小石原焼。「用の美」を追求する民陶として、高い支持を誇る小石原焼との販路の差別化を図り、連携を強化させることが、互いの産地活性化に欠かせません。



八女茶 販売連携

上野焼陶芸館で行われる「しずく茶試飲」と「手もみ実演」が好評の八女茶。とっておきの上野焼の湯飲みと、八女茶のまろやかな味わいが、毎日飲むお茶のひとつをいっそう充実させます。

